「一言・ふたこと」より

この1年間に「一言・ふたこと」欄に寄せられた，図書館に対する要望，苦情，提案等を整理してみると，ほぼ以下の4項目に大別できる。すなわち，1，図書館におけるサービスの改善――そのためには，利用者側と図書館側のコミュニケーションを徹底すること。2，研究者と学生間の落差の解消――研究者偏重の傾向を是正すること。3，学内協力体制の確立――そのために「全学図書協議会」（仮称）を設置すること。4，資料の充実――そのための図書購入費の増額。

1，の項目については，サービスに携る職員の絶対数が不足している現状の打開が先決問題だが，現在のスタッフでなし得る業務の改善は，早急に着手しなければならない。2，以下の項目については，図書館だけでなく，文部省，大学当局，研究者間の相互の深い理解と協力なしには，どれ一つとしてなし得ない。いずれにせよ大学の中にあって，その要求が必ずしも正当に反映されない層の声に，これからも図書館が積極的に応じてゆく姿勢を持たなければならない。大学改革の機運が盛りあがった今，一図書館員としてそのことが痛感される。

（T.S.）

図書の時差受入――ラッシュの解消に

1年間に附属図書館に持ち込まれて，整理される図書は，約53,000冊になる。これを月平均すれば，約4,400冊となり，もし図書が各部局から月平均して持ち込まれれば，整理はスムースにいき，それほど停滞はないものと思われる。しかし，実際は2，3月の年度末に全体の37%（特に3月は普通の月の3倍）の図書がもち込まれ，そのため新年度4月から7月にかけて，3カ月の整理のおくれがあり，これが正常にもどるのは8月から9月上旬になる。これを解消するには，各部局で会計上予算の配分を考え，月平均した支払い，登録が望まれる。

（受入掛より）

所在不明図書について――附属図書館書庫掛より

私は附属図書館に勤務する一職員として利用者のかたに常に赤面するような気持をもっている。それは図書館としての最小限のサービスさえ充分にできていないのではないかという危ぐなのである。長時間カウンターでお待ちねがったあげく「本が見当りません。」とお帰りをいただく場合が時々ある。これらのかたがたに対して，この紙上を借りて深くおわび申し上げると同時に，事情を説明して改善への決意を申しのべたい。

古い歴史をもつ図書館では，その長い利用期間を通じて，どうしてもある程度の不明本や使用不能の破損本等の発生を免れえない。それはしかたがないのだが，この場合図書館としてはその正確な「不明本リスト」をもつことが不可欠である。もしそうでないと，カードを見て図書を請求する利用者に多大の迷惑をかけることになるからである。遺憾ながら附属図書館では昭和32年の「物品管理法」施行直前に作成した「不明本リスト」をもってはいるが，それ以後現在までの期間には徹底した不明本調査が行なわれていない。したがって，この間に所在が不明になった図書についての完備したリストがない。何故徹底した不明本調査が行なわれなかったのか？それにはいろいろな理由があるが，先ずご多分にもれず人手不足に問題がある。428,030冊（昭和43年3月現在）の蔵書を保管する書庫掛員は2名であり，不明本調査以外の日常業務に追われがちである。次にあい路となっているのは，図書が第1・

第2書庫，開架図書室，参考図書室，事務用と5箇所に分置されていて，その実際の所在を示すリストが未完成であることである。

現在書庫掛としては，寒期のため机上で処理できる仕事に重点をおいているが，暖かくなれば先ず上記「所在リスト」の完成に鋭意つとめたい。ついでそれが完成次第，忍耐強く不明本調査をすすめていくつもりである。そして1日も早く利用者のかたに，カウンターで長時間待っていただくことのない，また，その請求に裏切ることのない日が来るようにしたい。

資料紹介

文科系文献目録　I—XIX, 1952～1968. 19 巻

日本学術会議第1部（文学，哲学，教育学，心理学，社会学，史学部門）が，その関係各専門分野の学問の向上発展をはかるため，事業の一つとして昭和27年より発行しつづけてきた学術文献目録である。はじめ「文学，哲学，史学文献目録」と称したが，1956年教育学，心理学，社会学が第1部の独立した専門分野となったので，XI巻より標題のように改めた。各巻編集者を異にするため，若干の相違はあるが，おおよそ歴史的な終戦日 1945.8.15 より現在にいたるまでの，日本人の全著作の専門別分類目録であり，わが国の学界水準をうかがう絶好の指針である。

収録するところは，単行書，雑誌論文，小冊子，新聞記事，あるいは飜訳書にもおよび，巻末に著者索引をつけている。（ただし XIII, XIV, XVII, XIX 巻にはこれがない。）以下既刊分をそのままに列記するが，たとえばIX巻の西洋古典学編にローマ法文献目録が収められているなど隣接関係もあり，再度研究者の一覧をすすめるものである。

巻号	専門分野	収録期間	タイトル数	刊年
I	日本文学篇	1945. 9～1950.12	7,000	昭27
	補遺(執筆者索引，補遺，正誤表)			昭30
II	西洋文学・語学篇	1945. 8.15～1952. 6.30	10,000	昭29
III	東洋文学・語学篇	1945. 8.15～1953.10.31	3,000	〃
	補遺	1953.11～1956.12	3,000	昭33
IV	宗教関係学術篇	1945. 8～1954. 6	6,000	昭30
V	日本民俗学篇	昭20. 8～29.12	3,600	〃
VI	国語学篇	1945. 8～1955.12	8,400	昭32
VII	教育学編	1945. 8～1957. 3	7,238	昭33
VIII	日本古代史編	昭21～32	2,600	昭34
IX	西洋古典学編	明治17～昭和33	4,300	昭35
X	中国哲学・思想篇	1945. 8.15～1959. 6.30	7,000	〃
XI	美学編	1945. 8～1959.12	4,100	昭36
XII	西洋文学・語学続篇	1952. 7～1956.12	6,500	〃
XIII	文化人類学篇	1945～1961	3,000	昭37
XIV	日本近代史・伝記篇	昭10～36	1,600	昭38
XV	日本人の性格研究篇	戦前より昭36まで	5,000	〃
XVI	倫理学編	昭20. 8～38. 3	6.500	昭39
XVII	考古学編	昭21～38	2,500	昭40
XVIII	西洋文学・語学続々篇	1960. 1～1964.12	7,700	昭41
XIX	社会学篇	明治16～昭和39	7,000	昭43